



# 京都大学大学院 地球環境学舎同窓会会報



第 13 号  
(2016 年 9 月発行)

## 目次

|  |    |
|--|----|
| 巻頭言.....                                     | 1  |
| 1. コラム<会員からのお便り> .....                       | 5  |
| コラム 1    板倉世典さん（2004 年度修士課程入学、第 3 期生） .....  | 5  |
| コラム 2    田中里奈さん（2013 年度修士課程入学、第 12 期生） ..... | 7  |
| 2. 平成 27（2015）年度開催 第 12 回総会について.....         | 9  |
| 3. 同窓会からのお知らせ .....                          | 10 |
| 1) 連絡先について .....                             | 10 |
| 2) 会費の支払い方法について .....                        | 10 |
| 3) 会員への情報発信等について .....                       | 11 |
| 4) 卒業記念品案内 .....                             | 12 |
| 5) 学舎同窓会ホームページと Facebook グループページのご案内.....    | 13 |
| 6) 2016 年度 総会・懇親会のご案内.....                   | 13 |

---

## 巻頭言

---

地球環境学舎同窓会会長 田中俊徳  
(五期生・地球環境政策論分野修了)

### 山の日を考える『幸せ』のカタチについて

残暑厳しい日が続いておりますが、皆さまに置かれましては、ますますご清祥のことと存じます。日頃より同窓会の活動にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

今年から「山の日」が新たな祝日として加わりました。私は、自然保護の研究をしている関係で、屋久島や奄美大島など日本各地の自然保護地域をまわっています。山の日には、九州最高峰の宮之浦岳（鹿児島県屋久島町/1,936m）に登頂しようと、その前日から標高 1,500m にある無人小屋に泊まりました。有名な縄文杉からさらに 2 時間ほど登ったところにある山小屋ですが、正午過ぎには小屋に到着してしまい、特にやることもなく、寝転んで、生まれては消える雲（というよりは水蒸気の帯）を眺めていました。大自然の中は静寂だと思われがちですが、蚊やアブの羽音、サルやシカ、野鳥の鳴き声、森のざわめきなど、うるさいくらいです。しかし、ふとした瞬間に静寂に包まれることがあります。否応なく、野性の感覚を研ぎ澄ますこととなります。現代の快適至極な都市生活では、身体の痛みや不快な匂いや音、痒みなどを遠ざける一方、心理的なストレスや肩凝りは増すばかりです。

以下は、山小屋で「暇」を持て余している間、フィールドノートに書き留めた「幸せ」に関する雑感を、巻頭言にあわせて加筆したものです。

-----

経済学の泰斗として知られるジョン・メイナード・ケインズは「孫の世代の経済的可能性」という論文を 1930 年に発表しています。この論文を要約すると、技術革新による労働生産性の向上（単位労働時間当たり生産量の増加）によって、孫の世代、つまり、2030 年頃には、1 日 3 時間の労働で「基本的なニーズ」が満たされる時代がやってくるだろうと彼は論じます。「大きな戦争や急激な人口増加がなければ」という留保を彼はつけましたが、現実には、第二次世界大戦が起こり、人口は当時の 3 倍以上に増加しました。しかしながら、技術革新の発展はケインズの予想を超えて凄まじく、1 人当たり GDP は順調に増加しました。ところで、私たちの労働時間はどうなったでしょう？彼の予測したように 1 日 3 時間労働になったのか。答えは、働いている私たちが一番よく知っている通り、「否」です。むしろ、サービス残業や過労死、ブラック企業、非正規雇用の拡大など、様々な問題が指摘されています。確かに私たちの労働生産性は劇的

に向上しているのに、なぜ、ケインズの指摘は現実のものとならなかったのでしょうか。

例えば、江戸時代、東京～大阪間を移動するのに片道約 14 日かかりました。1964 年、東京オリンピック開催にあわせて「夢の超特急」新幹線が登場しましたが、それでも当初 4 時間かかっていた。今は、2 時間半です。この半世紀で、往復 3 時間の短縮が達成されました。また、洗濯機や掃除機の登場により、家事にかかる時間も大幅に減少しました。洗濯板で 1 時間かかったものが、今は洗剤を入れ、ボタンを押すだけで済みます。電子レンジやコピー機、パソコン、スマホの登場も私たちの労働生産性を劇的に向上させています（昔は論文をガリ版刷りするためだけに数日費やしたそうです）。元来、こうした労働生産性の向上は、人々に余暇を提供すると目されてきました。家族や友人と過ごす時間、自分の趣味に費やす時間、ゆっくりご飯を食べ、ゆっくりと寝る時間……

ところが、現代の私たちは、昼食をとる時間もないほど忙しく働いている印象があります。この矛盾はどのように説明できるでしょうか？

一つには、「ジェヴォンズのパラドックス」という概念が参考になります。技術革新によって資源利用の効率性が上昇しても、なぜか、その消費量は増加するという現象です。新幹線の例で考えれば分かり易いですが、かつて関西や札幌方面への出張は 1 泊以上が標準でした。しかし、資源利用の効率性（この場合は移動時間の時間短縮）が原因となって、日帰り出張のインセンティブが高まり、結果として、以前よりも慌ただしく、旅情もない時間を過ごすこととなります。ケインズが「基本的ニーズ」と呼んだものについて議論の余地はありますが、私たちは物質的に充足して久しいにも関わらず、相変わらず忙しくしているのです。こうした現象を引き起こす要因は様々ですが、私は 2 点に着目しています。

一つは、ソースティン・ヴェブレンという経済学者が提唱した「顕示的消費」と呼ばれる人間の競争的な性（さが）です。「見せびらかし消費」とも呼ばれるこの性向は、質的に「より良いもの」を生み出す原動力にもなりますが、「人より良いものを」という欲望に基づくものであり、御しがたいものになりつつあります。かつては、宗教や倫理が、この性向を抑制するための金言や物語を用意したのですが、資本主義社会において、この危険な性向はいや増すばかりです。例えば、広告産業は、私たちの生活に必ずしも必要ではないものを買わせようと、日々努力しています。その戦略は、人間の持つ顕示的消費の性向を巧みに刺激しています。ロバート・スキデルスキーやハーマン・デイリー、トーマス・セドラチェクらが指摘するように、私たちは、必要でもないものを購入するために、もっと働いているというのが実際なのかもしれません（この浪費的性格は、地球環境や人権をも蹂躪しています）。

もう一つは、哲学的な問いですが、「人間は暇を恐れている」という事実です。会社でしか生きてこなかった男性が退職した瞬間、「何をしたらいいかわからない」結果、妻の後ばかりついて回って迷惑がられ、「濡れ落ち葉」と形容されたのは少し前になり

ますが、「余暇を楽しむ」という作業は、実のところ、極めて「創造的」な作業であり、相応の知性や感性がないと難しいと考えられています。確かに、社会を見渡してみると、私たちは受け身の「消費」を繰り返すばかりで、本質的な意味合いで「趣味」と呼べるものを持っていないことも多いという現実があります。ここに、「不必要なものを買うために、もっと働いている」というシーシュポスの神話を彷彿とさせる矛盾した現代の本質があるとも言えるでしょう。AI（人工知能）が労働の大半を代替する時代が遠からずやってくるという事実を踏まえると、私たちは、いかに地球環境に過度な負荷を与えずに「暇」と向き合うか、という、産業革命以来の重要なテーマと現実的に向き合う必要が出てきます。

こうした状況で、私が注目しているのが、「隠居」という日本特有の考え方です。江戸時代の武家や裕福な町人は、家督を長子に継いだ後、悠々自適な隠居生活を行いました。年中行事などにはありますが、究極の「暇」です。隠居中に彼らは詩歌や文芸を嗜むばかりではなく、高度な学問・研究に通じる様々な創作活動を行っています。例えば、伊能忠敬は49歳で息子に家督を譲った後に、50歳を機に関心を持っていた天文学を学ぶために江戸に出ます。その後、日本地図を完成させたのは有名な話ですが、そもそもの目的は、(完璧な暦を作るために)地球の直径を正確に測ることであり、その測量に必要な蝦夷渡航の建前として「地図製作」を幕府に伝えたものでした。他にも、朝顔や金魚の品種改良、本草学(薬学)の発展、出版文化の繁栄など、世界の最先端といえる学術や芸術、文化が趣味の延長として成されました。もちろん、超高齢社会を迎えた現代社会において実際に「隠居」するのは容易ではありませんが、部分的に隠居することは可能です(例えば、有休を完全消化する、ワーキングシェアをする、「半農半X」を行う、など)。では、どうすれば、隠居文化は成立しうるでしょう。

一つには、江戸時代の特徴である「長い平和」が必要です。200年以上、戦争のない平和な世があったからこそ、隠居文化は成立しました。好戦的で全体主義的な雰囲気では、文化や芸術、「人文系」が往々にして軽んじられます。また、暇を主体的に使いこなせる知性と感性が必要です。武家や町人は、幼い頃から読み書きや算術、詩歌を学ぶ機会に恵まれていました。入試や企業面接のためのマニュアル的な勉強・教育ではなく、学ぶことは本質的に面白いということを知ること、つまり、「素養」が必要です。また、質素儉約の精神も必要です。隠居するからには、過度な贅沢は身を滅ぼします。貪欲や浪費、飽食ではなく、質素儉約することで、地球環境への負荷も減らすことができます。腹八分目を知り、知的好奇心を失わず、生きるに値する日々を堅実に過ごすような精神を過去から学ぶことが、これからの幸せには求められるでしょう。「変化」や「危機」を煽る政治や消費社会に消費されないよう、慎ましく、たくましく、したたかに生きることが、より一層重要な意味を持つ時代になりつつあると感じます。

電気も水もない山小屋から見る星空は美しく、食糧も寝袋もゴミも含め全てを自分で背負わなければならない登山は、一級的环境教育だと改めて感じ入った山の日でした。

是非多くの方が自然に触れあい、環境意識を高め、「幸せのカタチ」を考えるきっかけになればと思っています。

(2016年8月15日、鹿児島にて)



---

## 1. コラム＜会員からのお便り＞

---

.....  
コラム 1 ..... 板倉世典さん（2004 年度修士課程入学、第 3 期生）  
.....

持続可能な祭にするために ～祭を映像で記録する活動とその意義について～

修士 3 期生（景観生態保全論分野）の板倉世典と申します。在学中に病を得てやむなく退学し、現在故郷の福島県南相馬市に在住です。東日本大震災を経験し、原子力災害の警戒区域指定により自宅を追われてからも、何とかしぶとくやっております。震災当時、学舎の同窓生や教職員の皆様には大変お世話になりました。つい先日自宅の避難指示が解除されましたが、元のような生活環境にはほど遠く、もどかしい限りです。私のできる範囲で復興に向け努力していきたいと考えています。

さて、今年も様々なお祭りが日本の、地域の宝として行われています。東日本大震災で壊滅的被害を受けた福島県の浜通りは、民俗文化財の宝庫です。震災後知名度が上がりましたが、南相馬市には平将門から受け継がれるとされる「相馬野馬追」という伝統行事があります。武士階級が廃止された後も今に残る大規模な武家行事として大変価値があり、国指定の重要無形民俗文化財に指定されています（写真は同期の望月康平さんが会報第 10 号に載せています）。ほかにも様々なお祭りや行事などが伝わっていますが、震災の影響などでまさに絶えんとするものがたくさんあります。

民俗文化財は形が変わらないのが望ましいとされています。では、せめてこの数十年でも、その形は変わっていないのでしょうか。お祭りというのは、みんな知っているようで、関係者しか知らないことが多々あり、何かが、何かの理由で変わってしまっても何となく過ぎ去ってしまい、気がつくとき大きく変わってしまったということがあります。

それでは、変えないためにはどうすればよいのでしょうか。変わってしまったものはどうすればよいのでしょうか。そもそもいつから変わったなどという証拠などあるのでしょうか。

私は「お祭りを持続可能なものとするために」という視点から、祭りを記録しておいて評論したり、場合に応じて元に戻したりできることは大切ではないかと考えました。そこで「映像で行事を全部記録する」という方法を提案し、DVD を製作しています（スタッフの都合などで本当の「全部」ではありませんが）。野馬追について始めたのが平成 19 年のことで、今年まで続いています。撮影時間はのべ 30 時間ほどになります。DVD は家族が頒布し、売り上げを翌年の資金に充てています。

お祭りというものは報道などでは一部にしかスポットが当たりません。私は野馬追に

ついて、出場者をまんべんなく観客や関係者のような視線で映像に記録するため、年ごとの微妙な違いも明らかになります。小中高と野馬追に8年出場した私は、野馬追に不文律が多いことを知っていますので、この手法には意義があると思っています。私が出ていた頃のホームビデオの記録も合わせれば、28年分の記録を保管、公開していることになり、市文化財課などにも好評頂いています。

また、震災後の東北を記録し、今年封切られたカナダの映画監督 Linda Ohama 氏の映画『Tohoku no Shingetsu』にも、特に野馬追について助言、出演、映像提供をしました。

そのほか、私は高校1年生から今まで南相馬市小高区南小高に伝わる御神楽を伝承しています。これも早い段階から名人と呼ばれる方の舞をはじめ、舞手それぞれの踊りを記録してDVD化し、一部はyoutubeにも載せました。震災の影響で、その伝承が危機的になっていますが、映像と音があれば、習得するのに容易ですし、あるいは廃絶しても復活する目はあるのです。

震災を経て、相馬野馬追の姿も少し変わりました。今年もすばらしい野馬追が開催できましたが、時代の波で壊れやすいものなので、油断はできません。

葵祭は、祇園祭は、岸和田だんじり祭は、昔と変わっていませんか？変わった証拠はありますか？変わったとすれば、それは変わってもよい変化でしたか？変わってしまった結果、伝えにくい祭となっていないですか？

記録はお祭りを持続可能なものとする基本だと思います。私はこれからも続けていくつもりです。



相馬野馬追28年分の記録の成果物



福島豊かな自然にも親しんでいます！  
(裏磐梯 雄国沼湿原)

.....  
コラム 2 .....田中里奈さん（2013 年度修士課程入学、第 12 期生）  
.....

国立公園・霧島山での日々

学舎第 12 期生・持続的農村開発論分野の田中と申します。

2015 年春に学舎の修士課程を修了し、環境省で働きはじめました。採用区分は自然系。主に国立公園や野生生物関係を担当し、レンジャーと呼ばれる職種です。

入省 1 年目は霞ヶ関の本省で勤務していましたが、2 年目となる今年 4 月から宮崎県えびの高原にある自然保護官事務所に配属されました。日本最初の国立公園である霧島山の自然を守り活かしていくため、事務仕事に限らず登山道管理、野生生物保護、観光振興など幅広い業務を担当しています。最近では 8 月 11 日の山の日に「霧島山モンテフェス」という自然体験イベントを開催しました。地域の皆さんの協力もあって予想以上に盛り上がり、何より子どもたちがたくさん遊びに来てくれたことが嬉しかったです。

休日は近くの温泉の日帰り入浴を巡ったり、神社を見学したり、焼酎を飲んだり(笑)していますが、やはり何をしても仕事と絡めて考えてしまいます。それだけ霧島山の自然の恵みが日々の暮らしと関わっているということでしょう。ワークとライフが混ざるのは良くないとも言われますが、もとより入省 2 年目で現地事務所に出してもらった身ですので、使える時間はフルに使って霧島山のことを勉強したいと考えています。そうして地域の自然や文化について横断的に学んだうえで、外部からの視点も交えて自分なりの提案をするのが私の役目のような気がするのです。その点どこか学舎での研究とも似ていますね。



そういえば、本省で勤務していた頃よりも現場に出てからのほうが学舎での経験を思い出すことが多くなりました。私は石川県の能登半島でインターンをしたのですが、あの時3ヶ月間滞在して能登の地域社会にじっくり向き合ったからこそ、今いる地域を客観的に見られる力がついたのだと感じます。それに、インターン中にやらかした様々な失敗、反省、後悔（研究でも日常生活でも）は今でも強く印象に残っていて、仕事を進めるうえでの大切な糧になっています。

能登とはしばらく離れてしまっていますが、お世話になった皆さんには心の中でずっと感謝しています。できることなら霧島山で良い仕事をしていつか能登へ報告に行きたい、そしておいしい日本酒と魚、椎茸などをゆっくり楽しみたいなあとぼんやり考えている今日この頃です。

.....

本コラムは、会員間の交流の一環として会員の方々のご好意によりご寄稿頂いています。このコラムを通じて、学舎の先輩、後輩、同級生の活動を知る一助となれば幸いです。コラム執筆にご協力いただきました板倉世典さん、田中里奈さんに、心よりお礼申し上げます。

#### コラム寄稿者紹介（敬称略）

板倉 世典（いたくら・としのり）：

環境マネジメント専攻修士課程 景観生態保全論分野、2004年4月入学、第3期生

田中 里奈（たなか・りな）：

環境マネジメント専攻修士課程 持続的農村開発論分野、2013年4月入学、第12期生

---

## 2. 平成 27 (2015) 年度開催 第 12 回総会について

---

「京都大学大学院地球環境学舎同窓会 第十二回総会」を以下の通り開催しました。前回の総会は、同窓会として初の試みである東京と京都の二拠点同時開催となりました。活発な議論がなされ、会員からの承認を要する項目に関しては、事前および当日の投票により承認を頂きました。ありがとうございました。

【日時】：2015年11月7日（土） 16:00 ～ 18:00

【場所】：京都：京都大学 吉田キャンパス総合研究 5 号館 1 階会議室

東京：京都大学 東京オフィス

【議題】：

< I. 役員会・事務局について >

1. 役員候補の紹介・承認
2. 事務局紹介

< II. 活動報告と今後の活動継続の承認 >

3. 2015年度名簿・会報作成の報告
4. 就職ガイダンスの報告
5. WEBサイト運営の報告
6. 卒業記念品に関する報告

< III. 事業計画の承認 >

7. 年間事業計画
8. 特別会員の会費無料化について
9. 卒業記念品について

< IV. 会計に関する報告と承認 >

10. 2015年度(2014年9月～2015年8月)決算報告と承認
11. 2016年度(2015年9月～2016年8月)予算案の報告と承認

< V. その他 >

12. 意見交換

---

### 3. 同窓会からのお知らせ

---

#### 1) 連絡先について

同窓会へのお問い合わせ・質問・ご意見等は以下のアドレスまでお願いいたします。

→ ges.alumni.bureau@gmail.com

#### 2) 会費の支払い方法について

##### ①年単位の支払い制度

年単位でお支払いいただく会費は、以下のように年度によってお支払い頂く額が異なります。

|         | 2009 年度まで | 2010 年度以降 |
|---------|-----------|-----------|
| 正会員(一般) | 300 円/年   | 500 円/年   |
| 正会員(在学) | 200 円/年   |           |
| 準会員     | 200 円/年   | 無料        |
| 特別会員    | 300 円/年   | 無料        |

ご自身の支払い状況が明確でないかたは、恐れ入りますが、上記、連絡先までお問い合わせください。

また 2012 年度 (2011 年 9 月～) より、第 8 回総会での承認を経て、終身会費も導入されました。年単位の会費を支払っていただいている会員の皆様も、お支払いいただいた金額が終身会費額に達しましたら、自動的に終身会員となりますので、ご了承ください (「②終身会費支払い制度」参照)。

##### ②終身会費支払い制度

2011 年 9 月 19 日に実施されました第 8 回総会において、同窓会役員会より終身会費制度の導入が提案され、総会に参加されておられていた会員、事前投票を送ってくださった会員の賛同を得て承認されました。

この終身会費導入の目的は、会員の会費支払いおよび同窓会事務局の会費会計処理の負担を軽減することにあります。

これにより、終身会費をお支払いいただいた会員には終身会員となっただき、それ以降の会費支払いはお求めいたしません (終身会費額が変更された場合も、変更前に終身会費をお支払いいただいていた会員には、変更差額等要求いたしません)。

また終身会費でなく年単位の会費をお支払いいただいている会員のかたも、お支払い

いただいている総額が終身会費額に達した時点で終身会費をお支払いいただいたものと見なし、終身会員となつていただきます。

### ③支払い方法

会費の支払い方法は①ゆうちょ銀行口座への振り込み、②事務局員への手渡しがあります。ゆうちょ銀行口座をご利用頂く場合、下記の口座に振り込みをお願いいたします。

ゆうちょ銀行 振込受取口座

【振込先名】 京都大学大学院地球環境学会同窓会

(キョウトダクイガクダクイケンキョウカクシヤトウソウカイ)

【店番号】 448

【預金種目】 普通預金

【口座番号】 2799694

ゆうちょ銀行振り込みによる支払い方法をご利用の際、同窓会連絡先（「1」連絡先について）参照）まで「〇〇年度会費」または「終身会費」を支払ったとご一報いただけますと幸いです。より正確な会計管理のためにご協力をお願いいたします。

### ④現在までの会費支払い状況の確認方法

これまでにお支払いいただいた会費の総額、未納の会費等、不明な点がございましたら、上記、同窓会連絡先までご連絡ください（「1」連絡先について）参照）。会員の皆さまの人数に対して、役員会・事務局で担当する人数に限りがあるために回答までに時間がかかることもございますが、ご了承ください。

### 3) 会員への情報発信等について

本同窓会の会員宛にメールを通じて情報発信をご希望される場合には、ges.alumni.bureau@gmail.com（学会同窓会事務局）までご連絡下さい。

#### 4) 卒業記念品案内

同窓会では、皆さまの卒業の記念に卒業記念品として名刺入れを販売しております。ご希望の方は、上記同窓会連絡先へ、お気軽にご注文ください(数に限りがあります)。



卒業記念品

名刺入れ(西陣織)

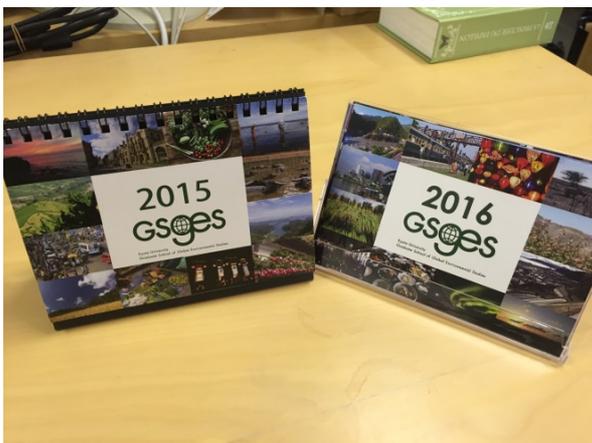
(京都大学のロゴと「地球環境学舎」の名が入っています)

色: 紺色またはエンジ色

単価: 1,400円

(郵送の場合、郵送実費の支払いをお願いすることがあります)

また、試験的にではありますが、有志で「GSGES カレンダー2016」を作成し、1冊500円で販売しています。謝恩会の受付にて販売したところ、修了生だけではなく、在生やOBOG、先生方、事務の方々からもご好評でした。カレンダーには、修了生たちがインターン研修や現地調査で撮影した、国内外様々な土地の写真を使用しています。同窓会の卒業記念品を今後どのような形で進めていくかは、継続的に検討していきたいと思っております。



#### 5) 学舎同窓会ホームページと Facebook グループページのご案内

就職ガイダンスの情報等を告知する場や、卒業生の活動を伝える情報のプラットフォームとして、現在学舎同窓会はホームページを運営しています。ホームページでは、過去の会報等を公開しております。

また、Facebook ページは、誰でも書き込めるように設定しておりますので、会員の皆様の交流や情報交換の場としてご活用頂ければ幸いです。

①HP アドレス→ <http://gsgesalumniwebsite.blog14.fc2.com/>

②Facebook → Facebook にログイン後、「地球環境学舎同窓会」で検索！

#### 6) 2016 年度 総会・懇親会のご案内

2016 年度の同窓会総会・懇親会は 2016 年 11 月 19 日（土）の 16 時から 18 時を予定しております。今年も東京と京都の二拠点で同時に開催したいと思います。会場は追ってメーリングリストにてご案内いたしますが、会員の皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。

京都大学大学院地球環境学舎同窓会会報 第13号 (平成28年度会報)

平成28年9月21日発行

発行者：田中 俊徳 (平成28年度 地球環境学舎同窓会会長)

発行所：京都大学大学院地球環境学舎同窓会

責任者：籠橋一輝・細谷直史 (平成28年度 会報担当役員)



地球環境学舎同窓会 平成28年度： 平成27年9月～平成28年8月